

平成21年度第1回林野庁入札等監視委員会 審議概要

開催日及び場所	平成21年5月26日(火) 林野庁会議室		
委員	栗田 誠 (千葉大学大学院教授) 井原 俊一 (林政ジャーナリスト) 志賀 和人 (筑波大学大学院教授)		
審議対象期間	平成21年1月1日～平成21年3月31日		
抽出案件	総件数 6件		
抽出案件内訳	【工事】	【物品・役務】	(備考)
(一般競争)	1 件	4 件	
(指名競争)	— 件	— 件	
(随意契約)	— 件	1 件	
(企画競争・公募)	— 件	1 件	
(その他)	— 件	— 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答等	
	別添のとおり	別添のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容 〔これらに対し所属局長が講じた措置内容〕	なし		

事務局：林野庁林政部林政課

	意見・質問	回 答
<p>委員からの意見 ・質問、それに対する回答等</p>	<p>工事関係 〔抽出番号1：平成20年度林業機械化センター庁舎の外壁塗装業務〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該入札は、沼田の林業機械化センターで実施されていると思うが、応札者（6者）は沼田市周辺の業者なのか。</li> <li>・落札率が高くなっているが、入札公告等を工夫することにより入札参加者を増やすことで、もっと競争性を確保できないか。</li> <li>・予定価格はどのようにして算定しているのか、面積に単価を乗じているのか。</li> <li>・単価についてはどのように決定しているのか。</li> <li>・塗装のような工事については、面積に単価を乗じて積算されるので業者の見積もりに差が生じにくく、また、発注者側の予定価格を推測しやすい面があり、落札率が高くなる傾向がある。本件の落札率も高くなっているが、何か工夫はできないのか。</li> </ul> <p>物品・役務関係 〔抽出番号1：平成20年度未利用森林資源の収集システム調査委託事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の7月に環境モデル都市になった北海道下川町と委託先（株）三菱総合研究所はこれまで関係はあったのか。</li> <li>・抽出番号2については随意契約となっているが、本事業については一般競争入札（総合評価落札方式）とした理由は何か。</li> <li>・事業計画書の事業費に外注費があるが、具体的には何か。</li> <li>・評価方式の技術点については応札者2者が同点となっているが、評価項目や評価基準に差がつきにくい設定になっていないか。</li> <li>・平成21年12月3日に入札公告をし、2月上旬に契約締結が行われているが、事業期間等を考慮し、計画的に発注できないものか。</li> <li>・調査結果の評価はどうか。</li> </ul> <p>抽出番号2：地すべり対策調査（大規模地すべり地における地下水排除工の施工効果と長期安定性の評価調査）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田市外の業者もいるが全て県内の業者である。</li> <li>・検討してまいりたい。</li> <li>・そのとおりである。</li> <li>・塗装業務については昨年度も実施しているところであり、実績等を加味し単価を設定している。</li> <li>・今回の落札率が高くなった要因は、第1回目の入札が不落となり、1回目の最低入札価格を基に再入札を行ったことによるものと考える。</li> <li>・（株）三菱総合研究所は下川町を含む北海道内4自治体からなる森林バイオマス関係の協議会からの受注実績があったと聞いている。</li> <li>・当該事業は、調査内容に企画の優劣を争う部分がないため一般競争とした。</li> <li>・当該事業の調査地である下川町のバイオマス等に関して知見を有する財団法人下川町ふるさと開発振興公社に外注したものである。</li> <li>・今回は応札内容が2社とも均衡していたため評価点に差がつかなかったものと思われる。</li> <li>・今後は事業内容等を考慮して計画的な契約事務を行う。</li> <li>・適正と考える。</li> </ul>

・企画提案があった財団法人日本水  
土総合研究所の概要を説明して頂きたい。

・独立行政法人森林総合研究所は過去にも本調査に関わっていたことがあるのか。

・銅山川地区を本調査のモデル地区とした理由は何か。

・平成21年度もこの調査は実施するのか。

[抽出番号3：空中写真撮影位置図等の数値データ作成業務]

・契約書の別紙「作業対象範囲」に記載されている撮影地区番号だけでは実施場所が理解できないので、全体計画等の中で、今回の業務の位置づけなどを伺いたい。

・今回の作業対象範囲は国有林担当分、都道府県担当分の両方が含まれているのか。

・一般競争参加資格で類似業務を必要な資格としたとあるが、具体的にはどのようなになっているのか。

・当該事業の参加資格者は相当数あると理解してよいか。

[抽出番号4：都道府県RDB（レッドデータブック）分布数値データ一式]

・対象となる県は記載されている福島・栃木・千葉・山梨等が全てではないのではないか。

・データ化のメッシュはどのくらいのサイズか。

・財団法人日本水  
土総合研究所の業務は多岐に渡るが、地すべり地における水文調査や地すべりブロックの挙動解析も業務の一つとして実施している。

・独立行政法人森林総合研究所は過去にも本調査を実施している。

・当該地区は、地すべりの規模が大きいこと、長期に渡る観測データを有していること等からモデル地区としたものである。

・平成21年度も予定しており、一般競争で実施する予定である。

・空中写真の撮影については、日本国土の半分ずつを国土地理院と林野庁で分担し、さらに林野庁分について国有林と都道府県で分担し、基本的に5年サイクルで担当地区を網羅するように実施している。ただし、天候等により未撮影になっている部分もあることから過去10年分を対象とした。撮影地区番号は個々の地区ごとに番号を付したものであり、今回の作業対象範囲は林野庁担当分である。

・そのとおりである。

・入札説明書の中で相手方は特段限定していない。今回の業務は空中写真位置図のネガフィルムをデジタル化して撮影位置、飛行の軌跡等の情報を数値データ化し、座標値等の属性データを付与するといった正確性の求められる業務であるとともに、今後デジタルデータを提供していく場合、公共測量成果としての精度が求められることから、類似業務実績を要件としたものである。

・航空測量を実施しているところであれば参加資格はあるものと思われる。

・都道府県のレッドデータブックの情報は県毎にまちまちであるため、分布図がメッシュで作成されている県を対象にしている。

・約10キロ四方である。

・10キロ四方のメッシュでは大きすぎるのではないか。

・契約日と履行期限が短期間となっているがいかがか。

・この事業は環境関係の者であれば行うことが可能と思われるが、応札者は2者となっており、どのように考えているか。

・予定価格についてはどのように設定しているのか。

〔抽出番号5：林野国営保険申込書等用紙の印刷及び梱包・発送業務〕

・予定価格に対し落札価格が低価となっている。今後も同事業は実施されると思うが、この価格をベースに予定価格を設定すると低価になってしまうが、どうか。

その他

・各委員からの意見等に適宜対処し、入札業務の適正な執行に努めていただきたい。

・絞り込みはできると判断しており、たとえば湿地を好む種等、動物の生息などにより判断できると思っている。また、大きなサイズとはいえ公表されているデータがあるにもかかわらず、森林施業に際して配慮しないわけにはいかないと考えている。

・既存データの購入であるため履行期間としては十分であると判断したものである。

・多数応札があると予想したが、結果的に2者となったものである。

・参考見積を基に予定価格を設定している。

・今回は版下を所有する業者が参加した特別な場合と判断しており、次回の予定価格のベースとはしない考えである。